午前10時03分開議

**○委員長（工藤　篤）**

・　開会宣告

・　議題の確認

---

1　閉会中継続調査事件

(1) 街の顔としての函館駅前通のにぎわいづくりについて

**○委員長（工藤　篤）**

・　議題宣告

・　本件については、前回の委員会において、本日の委員会で担当部局から説明を受け、調査を進めることを確認していた。

・　それでは、経済部の出席を求める。

（経済部　入室）

**○委員長（工藤　篤）**

・　それでは、当市の施策の推進状況などについて説明をお願いする。

（事務局　資料配付）

**○経済部参事１級（上戸　泰雄）**

・　街の顔としての函館駅前通のにぎわいづくりにかかわり、ただ今配付させていただいた資料をもとに説明させていただきたい。説明については、阿部参事３級に説明させるのでよろしくお願いする。

**○経済部参事３級（阿部　貴樹）**

・　資料説明：駅前通のデザイン（当日配付　経済部調製）

**○委員長（工藤　篤）**

・　それでは、ただ今の説明に対し、各委員から発言はあるか。

**○出村　勝彦委員**

・　イタリアポプラを街路樹として採用したいとのお話だが、現実にどこか街路樹として採用している都市があれば教えていただきたい。

**○経済部参事１級（上戸　泰雄）**

・　手元に資料がないので、後ほど調べて御報告したい。まず、条件的に地下水位が高い、あまり広がらないということで、候補の一つとして選んでいる。あと、函館市内ではこの街路樹を採用しているところはない。

**○出村　勝彦委員**

・　ポプラに対する記憶として、昔、亀田川にずっとポプラがあった。相当大きくなる。それから、カラスが巣を作っていたという記憶があって、街路樹としていかがなものかという感じもないわけではない。あのポプラとイタリアポプラは違うんだろうけど。後でわかったら教えていただきたい。

**○経済部参事１級（上戸　泰雄）**

・　資料を揃えて後ほど説明にお伺いしたい。

**○吉田　崇仁委員**

・　図面の街路灯を見ると、電柱みたいのがぼんと１本立ったような形だが、この姿で函館の良さが出るのかどうかお尋ねしたい。

**○経済部参事３級（阿部　貴樹）**

・　どちらかというとシンプルな形になっている。シンプルな形だが、光源はかなり明るくしているので安全性には問題はないと思っている。このような街路灯は函館市にはないと思うので、設置されれば初めての街路灯のデザインになると思う。

**○吉田　崇仁委員**

・　横浜の近くに馬車道という町があり、日本で初めて街路灯が設置されたと。その理由は、外人がよく横浜港に来て、貴婦人とか男爵が、いわゆる馬車が通る道で馬車道という駅の名前である。そこが初めて街路灯が設置された場所ということで、２年前、勉強のために行ってきたが、確かにすばらしいものであった。その町に入ると、街路灯一つによってがらっと変わる。品のあるすばらしい町をつくっている。このようなただ明るいだけの電柱みたいので、函館の良さが出るのかどうかということを聞いたがいかがか。

**○委員長（工藤　篤）**

・　いわゆるデザインとかということを含めてという意味か。

**○吉田　崇仁委員**

・　もう少しいろんな所を調査していただいて、函館らしい街路灯にすれば良かったのではないかというのが私の今の質問である。ただびょんとした、何となくあまりにも、ただ明るければいいというものでもない。やはり一つの品というか、これから新幹線も入ってくるので、函館の街は街路灯もすてきだねと言われるようなデザインにしなかったのかどうか、その点について聞いている。

**○委員長（工藤　篤）**

・　少し確認したいが、この絵になっている部分は決定したということではないということでよいか。

**○経済部参事３級（阿部　貴樹）**

・　はい。

**○吉田　崇仁委員**

・　やはりいろんな所を見て、街路灯一つによって街並みががらっと変わってくるので、その点をもっと調査してやっていただきたい。

**○経済部参事１級（上戸　泰雄）**

・　今、吉田委員がおっしゃるとおりだと思う。確かに、西部地区であればオレンジ色の街路灯があるだとかいろいろ当然ある話で。これは例えば道路管理者である開建と協議をする上でのたたき台の案としてトータルデザインで考え方を示させていただいたものである。先ほども説明したように電線類を地中化することによって、市電の架線のクモの巣状になっているものをシンプルにするために街路灯と電柱を一緒にしたようなものだとか、そういうことなどいろんな要素を含めて検討したもので、今後デザインとか道路管理者である開建といろいろと詰めていかなければならないというふうに思っているので御理解願いたい。

**○吉田　崇仁委員**

・　早急に調査をして、誇れるような街路灯にしていただきたいと思う。

**○藤井　辰吉委員**

・　予定だけで結構なんだが、フラッグポールのせり出しの方向は車道側と歩道側のどちらの予定になっているのか。

**○経済部参事３級（阿部　貴樹）**

・　今予定されているのは、歩道側に対して張り出すような形を考えている。

**○藤井　辰吉委員**

・　フラッグの設置のための許可申請の窓口はどこになるのか。

**○経済部参事３級（阿部　貴樹）**

・　ここは国道なので、国という形になる。

**○藤井　辰吉委員**

・　ポールの設置ではなく、どういうイベントのフラッグを、あるいはどこの企業とか団体がつくったものを、そこにかけていいかどうかの許可についてはどうか。

**○経済部参事３級（阿部　貴樹）**

・　都心商店街振興組合が許可する形になると思う。例えば、この前、ＧＬＡＹのイベントやグルメサーカスの時もフラッグを掲げたが、都心商店街にお願いをする形になる。

**○藤井　辰吉委員**

・　もし、ここの街並みをある程度のコンセプトを持ったものに生まれ変わらせようという意志が、どの程度かにもよるのだが、もしコンセプトをがっとこう主張したいという感じであれば、どういうフラッグを設置するかという設置基準に関しても、市のほうからもお願い的なものを振興組合のほうに伝えておく必要もあると思うので質問した。

**○松宮　健治委員**

・　駅前の商店街の構成は、都心商店街振興組合の一つだけか、それとも複数あるのか。

**○経済部参事３級（阿部　貴樹）**

・　現在は、都心商店街振興組合の一つである。

**○松宮　健治委員**

・　例えば、中活の計画を作るときに、五稜郭は確か３つか４つに分かれていて結構意見調整に手間取っていたような話も聞いていたので、大門は一つであればそこが決断すればスムーズにいくのかなと思って確認した。

・　ポプラはすごく大きくなるというイメージがあるので本当にいいのかということが正直いってある。先ほど、亀田川という話があったが、確か共愛会病院の土手がたぶんポプラだったと思うが、結構太くなるので、うーんという感じがして、例えばこの大きな建物にものすごい台風が来たとき倒れてしまわないかということがある。確か石狩のほう、石狩街道沿い、創成川沿いには大きいポプラがあり、ああいうところにはポプラはふさわしいと思うが、町なかではどうなのか。ヨーロッパ云々ということでは、ヨーロッパの街並みで大きな景観をつくったのはイトスギだと思ったので、例えば、

そういうふうな針葉樹の計画はないのか。

**○経済部参事１級（上戸　泰雄）**

・　これも一つの案であり、四季を感じさせるものにしたいということで落葉樹を選んだということが一つある。それと、針葉樹はどうかという話だが、当然落ち葉の問題とかいろいろ課題はあるが、四季を感じさせるものにしたいという思いでまずは落葉樹の高木を選んだ。今後これをもとに開建といろいろと意見をぶつけ合いながら、樹種についても検討してまいりたい。

**○松宮　健治委員**

・　季節を感じさせるものであれば確か今、駅前通はナナカマドだったと思うので、そっちのほうがより季節感があるかなと思ったが、ポプラにするのであればかなり積極的な理由がないと失敗する気がするので、よろしくお願いしたい。

・　経済建設常任委員会で去年、視察した富山では町なかの路面電車と鉄道をドッキングさせて直通方式でやっていた。今この図面を見ていて、ちょっと難しいかもしれないが駅前を本当にやるのであれば、今、新函館から現函館までたぶん直通の電車が走ると思うが、それをそのまま函館の町なかに直通でできないものかと。たぶんできないことはないが、そうするとかなり函館の町なかから新幹線に行けるというイメージがすごく膨らむのだが、例えば今さらだが、そういうふうな考えや発想は今まではなかったのか。

**○経済部参事３級（阿部　貴樹）**

・　中活計画をつくる際、パブリックコメントなどもいただいた中で、駅まで電車を延長したらいいのではないかという話もあり、その辺も我々も検討したのだが、なかなかやはり予算的な面とかもあり、非常に難しいということで、今回、電車については既存のままという形で考えている。新函館駅からのという部分については、今回の検討内容には入ってはいなかった。ただ、今後、交通体系の問題もいろいろあり、交通体系の担当の部分もあるので、その辺は本日こういうお話があったということはしていきたいと思っている。

**○松宮　健治委員**

・　予算はかなりかかると思うが、もし直通方式が可能であれば、函館市内どこからでも電車に乗れば新幹線に行けるというふうな発想を是非今後、検討していただければと思うので要望しておく。

**○井田　範行委員**

・　一般的な街灯というのはスポット的に照らす、車道側や歩道側を照らすというのが私の知っているエリアの街灯である。想像でいくと360度照らそうとしているがこの狙いをまずお聞きする。

**○経済部参事１級（上戸　泰雄）**

・　道路や歩道を照らす場合は、照度計算みたいなものをやって、道路構造令で決まっている照度を確保するようなことでやっている。道路を照らすのを特にここで明記させていただいたのは、交差点の場合は車道を明るくしなければだめだという規定があり、そういうふうにやっているはずである。なので、これは歩道と車道を明るくしたい、道路構造令でいうところの照度を確保するためにこういう形を採用したものだと思っている。

**○井田　範行委員**

・　恐らく推測でいくと360度明かりが入る。車道と歩道であって両サイドまでいくが、きっと出来上がりはすごい街が明るくなる。スポット的なものというのはその部分しか明るくならないので、その狙いというのは、まず街全体の明るさを基本として考えましたとかっていう答えがくるのかなと思って質問した。360度照らす理由は何か。それは街の美観という考え方もある、あと街全体を明るくするとか、その辺の狙いがあって恐らく設計された人に何かあるはずである。それを聞きたい。

**○経済部参事１級（上戸　泰雄）**

・　今、井田委員がおっしゃった話は非常に大きな問題だと思っている。駅前通の整備に関してはなかなか難しい話ではあるが、現在、アーケードが付いておりかなり明るくなっているので、それから極端に照度を下げることもなかなかできないだろうと。だが、開放的な状態にしたい、そして函館駅から下りてぱっと見た時に函館の顔となるべき景観をつくっていきたいということで、こういうものをつくったのは間違いない。これも開建とも意見を戦わせなければならない部分で、開建のほうでも独自の基準とかあると思うので、その辺は今後の協議になるかと思う。

**○井田　範行委員**

・　デザインの良い悪いは専門家に任せるとして、なぜこうしたかという根拠をきちんと持って、そこで説明いただかないと。いろんな形があるのだろうが、360度にした理由というのは恐らくアーケードの部分が明るいのでスポット的にやっていると全体的が暗くなるので、こういう根拠っでもって360度という考え方にしましたというのも、これもこれで答えである。ただその辺をもうちょっと、今でなくてもいいがきちんと詰めて、なぜという部分をきちんと整理していただきたい。

・　工作物の関係で、電柱関係は地中化ということで、非常に残念なのは電車の部分だけはどうしても残る、これは地中化は非常に難しいと思うが、それ以外に当然、歩道、車道のはじに入る工作物があると思うが、そういうものはどういうものが考えられるのか。その対策はどうなっているのか、お聞きしたい。例えば、一般的に考えられるのは道路標識のポールだとか、ポストとか、消火栓、そういうものをこの一体感の中で今までと同じイメージにされるものなのか､これもちょっと工夫した中で、要するに駅前の顔というわけだから、その辺はどのような考え方でいるのか聞きたい。

**○経済部参事３級（阿部　貴樹）**

・　今話があった標識、あと今考えられるのは、仮に地中化した時にトランスとかも上に出てくる可能性もあるし、消火栓も残ると思う。その部分については、我々とすればできるだけシンプルにしていきたいと思うが、当然残さなければならないところは、この辺も開発建設部とも話し合いをさせていただきながら、例えば、できるかどうかはあれだが、色を同色にするとか一体感のあるような形にするとか、そういう形でしていきたいと思っている。なので、実際、残る部分は出てくるのかなと思っている。

**○井田　範行委員**

・　当然、必要なものは残らざるを得ない。それはいいのだが、市として開建と相談する前に、私どもはこういうコンセプトでいきたいというものをしっかり持った中で相手と話をしないと、開建はどうしますかという話ではなくて、私どもはこういう駅前通、街並みをつくりたいんだというきちんとした軸足を持ちながらやらないとだめだと思うので、是非その辺もよろしくお願いしたい。

・　街頭スピーカーはどうなるのか。どれにぶら下げるのか。

**○経済部参事３級（阿部　貴樹）**

・　実際、今でも有線があるが、これから有線の会社の方とも協議をさせていただきたいと思う。できるだけ線は無くしたいと思うので、それは地下に入れながら、例えばスピーカーだけを街路灯に付けるとか、その辺をこれから協議させていただきたいと思っている。

**○井田　範行委員**

・　スピーカーを付けるにしてもせっかくこういうデザインがあった中で、そのスピーカーがぽんと付くことによってどういう感じになるのか。せっかくそこまで凝るのであれば、徹底してやらないと、その辺も全部考えながら作っていかないとまずいと思う。

・　街灯も含めて、最終的に街並みがきれいになった。そこで都市建の部分に入ってしまうかもしれないが、きれいになるのは車道、歩道部分、その周りの建物の色指定をかけたり、いろんな制限をかけた中で、きれいにしている地域もあるのだが、沿線にある建物の規制の検討というのはどう考えているのか。

**○経済部参事１級（上戸　泰雄）**

・　今、井田委員がおっしゃられたことは街づくりを考える上ですごく大きい問題である。それは当然、私ども中心市街地を担っている経済部だけの話ではなくて、都市建設部、企画部だとか関係する部局との、それからまた駅前、大門、五稜郭地区、中心市街地のエリアの中ですべて考えていかなければならない大きい街づくりの話だと思っている。その辺は当然、今現在も都市建設部と美しいまちづくり検討会の中でいろんな話の中に私どもも入りながら、いろいろ検討はしている。ただそれがここのところで、どうなるかということは現段階では結論が出ていないので、その辺も当然、重大な課題、大きな街づくりのための課題だと思っているので、十分検討してまいりたいと思っている。

**○井田　範行委員**

・　街の中に一体感のある色のものが全部あるかどうかという問題も当然出てくる。これから検討というよりも、早い段階で、既存のものはもうどうしようもないと思うが、やはり今後、一体感のあるということであれば、ある程度の、がちがちにしてしまうといろいろ問題が起きると思うが、そこら辺もある程度示しながら動いていかなければ、やはりいいものというのか、要するに函館の顔としてのという話で言うのであれば、そこまで是非こだわっていただきたいと思う。まだまだ言いたいことはあるが、どちらにしても、なるほどなという根拠を持った形の中で、ああ、こういう形になるんですねということを是非、わかるような形にしていただきたい。

**○小山　直子委員**

・　歩道はレンガ舗装という形で、これが歴史的な函館の街の風景にマッチするという形で選んだのか、それとも強度という形で選択をしているのか、お聞かせいただきたい。

**○経済部参事１級（上戸　泰雄）**

・　私どもはこれをつくった時、函館の顔としてのイメージだった。駅前・大門地区の美しい街づくりのコンセプトがオールドニューという話でいっているので、その辺を融合したような形で函館のデザイン的なものではないかというふうに理解している。

**○小山　直子委員**

・　見た目には本当にきれいだし、駅前、函館の顔という形にはなると思うが、日常生活の中で例えば小さな子供を連れて歩いたり、あるいは乳母車だったり、それから駅前には高齢者施設がふえてきたのでその時に車椅子だったりということを考えた時に、函館の人にとって歩きやすいのか、集いやすいのかというのを考えるので、その辺の検討もお願いしたい。

・　１枚目の資料を見ると、歩道だけではなく今のグリーンプラザの辺りも同じような形にするのかなと思うが、この絵を見ると、今日は駅前通の話だったが、このグリーンプラザのところも一体感を持つような形で同じように改修をするということか。

**○経済部参事１級（上戸　泰雄）**

・　今、私どもの考えとしては、グリーンプラザと駅前通は全く別物ではなく一体で考えなければだめではないかと考えている。今まで申し上げてきたようにいろんな個別の要素、街路樹であり、照明であり、舗装材であり、様々な問題があると思うが、その辺は当然、国と協議すると同時に市の内部でもいろいろ、まずはグリーンプラザもどうしていくかということも含めて検討してまいりたい。整備については全く別物ではなくて一体として考えて行きたいと思っている。

**○小山　直子委員**

・　１枚目の図面の中でグリーンプラザの向かい側に大きな赤いモニュメントが、大門みたいなイメージのものも描かれているが、その辺りも一緒に検討していくことになるのか。

**○経済部参事１級（上戸　泰雄）**

・　これは当初、トータルデザインの中間報告のような形で一度お示しした中で、いろいろ御議論いただいたものである。今後これに関しては、これをどうするのかではなくて、こういう考え方もあって、そしてこれをどう利活用していくかということの提案はトータルデザインの中で受けた。そしてそれに対して、市としてまだこういう形で進んでいこうかどうかというところまでまだ至っていないので、その辺はまた駅前通の整備とは別にグリーンプラザの整備について一定程度の方向性が示せる段階になったら委員会の御意見をいただきながら進めてまいりたいので御理解いただきたい。

**○福島　恭二委員**

・　私は基本的に大門のアーケードを撤去することについて反対だと言って質問させていただいた時期もある。今もってそれは変わらない。写真だけ見れば極めてすっきりして、すばらしい街並みになるなということでは、願わくばこういうことになってほしいなという期待もないわけではない。ただ、１枚目の左側は、駅前から見た駅前通だと思うが、全て400メートルの間、こういう形ですっきりした形になれば一番いいんだろうけれど、先ほども質問があったとおり、アーケードを取ってしまうと、でこぼこそれぞれ、色もばらばらになってくるのだが、そういったことについて何か工夫を凝らすとか、あるいは手直しを依頼とするか、行政が自らするとか、ということなども話し合われているのか。

・　説明している担当部がこういうものをつくりたいんだという、学者も含めて全体が、イメージの共有がされているんだろうかという感じを受ける。イメージを共有して、トータルデザインを全部、こうあるべき、こうしたいと、やはり函館は函館に合った街路灯だとか、いわゆる函館にマッチしたものにすべきだとか、いろいろあると思う。そういうことなどはやはり函館としてはこうあるべきだと

いうことが全部イメージとして共有化されているのだろうかと思うのだが、その辺のことはどうか。

**○経済部参事１級（上戸　泰雄）**

・　アーケード撤去後の周りの状況に関しては、今現在も都心商店街の方々といろいろと意見交換をさせていただいる中でも出てきている話で、その辺の意見、要望も多々ある。経済部と都心商店街と今後いろいろ意見を交わしながら、関係する他の部局と連携を取りながら進めていかなければならないと思っている。現段階ではまだ具体的な話になっていないので、今お答えできるのはこの程度でしかない。

・　３月末に認定を受けた中活計画、特に函館駅前通というのは北海道新幹線新函館開業に向けて非常に大きいウエイトを占める大きな事業だと思っており、それについては、是が非でも他の都市に負けないようなものにしていきたい、他の都市の人が来た時に、函館の駅を下りてすばらしい街並みだなというものをつくっていきたいと思っているが、事業主体の方々との調整が現段階で私たちの役目なので、強い意志は忘れずに持って、これが函館のあるべき姿だというものを再度構築しながらやっていきたいと思っている。

**○福島　恭二委員**

・　これから具体的に話し合いをしていくなり、していかなければならない問題だとは思う。私が反対だと言ってももう既に撤去する方向で進められていると思うので、その後のことを心配している。これからだと言っても、結局、絵に描かれたようにすっきりになれば一番いいのだろうけれど、例えば、かつてシンガポールに行って、見たり聞いたりした時には、４年か５年ごとに国で個人の各住宅の塗装、塗り替えを行う。その代わりに国が手を入れて街並みを整えるというか、デザインを整えるというか、色彩も含めて美観を調整するということをやっている。そのくらいしっかり力を入れてやるということになれば、でこぼこは格好悪いからもっと平らにしろとか、向かいと合わせろとかというような美観の問題も含めて行政指導してきちんとなされるのであれば、取った後もすっきりしてかえっていいのかなという感じもないわけでもない。そういうことなども考えていかなければなかなか個人任せでは、すっきりした街並みにはならない。先ほど皆さんがそれぞれいろんな建造物が建つはずなんだけど、それをどういうふうにするのかということもまだ今のところはっきりしていないという。街路灯の問題もしかりだが。で、今その中でもう一つ考えるのは、街路灯は街路灯ですっきりしたものにしたいということでイメージされているのはいいのだが、言うまでもなく函館は夜景を売り出している街である。最近の夜景の明かりを見たことがあると思うが、昔はきらきら光った、ダイヤモンドの箱をひっくり返したようなきらきらした街並みだった。最近の明かりはどうか、赤い色がざっくりである。かつてのイメージは全くない。こういうことなどを考えると、せっかく世界一と売り出している夜景が現在はもう半減してしまっている。こういうことを契機として明かりをもう一度取り戻すということなども考えなければならないはずだと思う。そういうことからいけば、函館らしさ、函館らしさといってもたくさんあると思うが、函館らしさを活かして、こういう街にするんだと、トータルデザインを考えた時に、担当である皆さんも含めて、あるいは当然、プロである都市建の皆さんとも調整するのだろうけれども、このデザインを我々に示す段階でも意見を聞いて取り入れてもらうことも必要だし当然だと思う。しかし、あまりにも取り入れすぎると、デザインが違うものになって

変わってしまう恐れもある。だからこそ、トータルイメージをきちんと持って、説明する、実行する皆さんが、まずそれをきちんと持って、この範疇までは譲れるけど、この範疇までは譲れないというものがあって、こういうものができるのではないかと思う。ところが聞いている限りでは、それがまだまちまちというか、まとまっていない。つくった本人、学校の先生含めてイメージ的にきちんと共有されていないのではないのかという感じを受けた。これではなかなかまとまりがつかない。大門から五稜郭を含めてエリアを広げたが、大門は大門の、五稜郭は五稜郭の個性があっていいと思う。それは一緒でなくていい。やっぱり大門は大門で確かに函館の顔になる。かつて函館駅を改修したように、あそこは新幹線の駅にするのではないか、なるのではないかという淡い期待はあった。しかし、基本は恐らく駅は向こうになるんだろうと、スイッチバックはあっても本駅は旧大野だと。そうすれば、そこからいかに魅力あるものにして客を誘導するかというために駅前再開発をした。新幹線の駅を完全に函館駅にするためにやったのではないはずである。それに100億円もかけている云々という話もかつてはあったが、基本はそういったことを想定していかに大門に、函館にお客さんを呼ぶかという誘導施策の一つとしてやった。したがって今度こそ、駅と連動した大門地区も広げて、これに連動した再開発をしながら魅力ある街づくりにしたいというのが今回の案だと思う。とすれば、トータル的にそこも含めて考えるのが当然であって、だからこういう、今見事に、すばらしい街並みなので、願わくばこういうことになってほしいと思う。ほしいんだけれども、説明する皆さん方が、学校の先生、都市建も含め函館市が一つになって、こういう街にするんだと、それぞれイメージが、どなたに聞いても同じ答弁が返ってくるというようなことでなければ、なかなかいい街にならないのではないかという心配もする。ちょっとその辺をまず共有化して、この辺までは譲れるけど、この辺はこうなればこうなんですよと、だから私どもはこうしたいんだと。こういう心配があるけど、この程度は直せるけど、これを基本にしていきたいとかというようなことをきちんと自信を持って説明するようなことでなければ、なかなかうまくいかないかなという感じがしたのでちょっと聞いておきたいと思った。だから是非そういったことも、まずイメージをきちんと共有化して、例えば街路樹の問題も検討したほうがいいと思う。私は工藤市長の政策でこの案が出た時に、すばらしいなと思いつつも、お金のかかることばかりだなと。言ってみれば函館市も公園化しようということだから、簡単に言うと、イメージ的に言うと。そうすると、さっき言ったようにポプラであれば落ち葉に悩まされると、掃除はするが、してもしても風が吹けば秋口になるとたまってくるという、この繰り返しである。ボランティアを募ればいいのかもしれないが全部お金である。だからいくらお金があっても足りないくらいの街になるのではないかという心配もないわけではない。結果として活性化されてにぎわってくれば、経済が活性化すればその分だけまた潤うということになってくるから、それを期待していればこそ、そういうことも必要だと思う。しかしお金だけかかったが、さっぱり活性化されないということだって考えなければならない。というふうに考えれば、もっとお互いに、ああしたほういい、こうしたほうがいいということは提言するが、皆さんがこの辺は譲れる、この辺は譲れない、これはこうすることによってこういう効果があるんだと、そんなことをきちんと説明できるような、専門部署といってもできたばかりだが、もっとその辺も含めて対応していくようにしてほしいと思う。

**○経済部参事１級（上戸　泰雄）**

・　各委員から個別の案件について質問を受け、それに対する私どもの答えがやはり自信を持ってはっきりと、それはそうだけれども、これはこうなんだということがなかなか言えない部分があったことは否めないと思う。それでそのことについて今、福島委員のほうから、そうではなくて、トータルで考えるべき、そしてそのことを強い意志を持って言わなければだめだというふうに言われたと認識している。そのことは仕事を進めていく上では非常に大事なことだし、スピード感を持ってやっていかなければだめな業務である以上は本当にとても大事なことだと思っているので十分それは肝に銘じて今後進めていきたい。

**○福島　恭二委員**

・　先ほどからずっと答弁している中で、特に国道の問題だから開建と相談しなければ云々という話が随所に出てくるが、この間、トランジットモール化をはかるべきだということで質問したが、これについても通り一遍の、いわゆる開建だとか国とお話をしなければ何もできませんみたいな話で終わってしまった。新駅との関係を重視しようと考えたとすれば、やはり直行便を、これを交通各社の中では市電も、狭軌だから走れるはずである。だからつなごうと思えば簡単につなげる。そのようなことも考えるべきだという提言もあったはずだが、それは今は立ち消えになった。しかし、駅まで、朝市までは入れるべきだという議論も具体的にあったはずである。当然、そういうことなどもトータル的に考えていくと、駅と大門とをつなぐということもさることながら、空港と湯の川とをつなぐということもあるわけだから、そういうことも考えながら、そして言いたいのは、最近の分権時代を考えると国と協議しなければという話がどうも違和感を感じる。街をつくるのは函館市であるから、函館市に協力してもらわなければ困る。だからそれもさっき言ったように、きちんとしたトータルデザインを共有化していけば、何としてもこれはやってもらわければ困るんだと、あなた方反対しようと、こちらに合わせてもらわないと困るというくらいの態度で臨まなければなかなかできない。それも含めてさっき言ったつもりである。是非そういうことも含めて頑張っていただきたい。

**○本間　勝美委員**

・　街路樹のことだが、イタリアポプラということで、先ほどの答弁の中では歩道がかなり狭いので横に枝が広がらない樹種ということで上に広がるものということである。函館の街の特徴とすれば、海に挟まれているので、まず塩に弱いか強いかというところ。潮風に負けてしまってすぐに枯れてしまう可能性もある。あとは根である。目に見える部分ではなくて地下の部分がどうなっているのか、根の張り方がどうなっているのかということも問われてくると思うが、函館市内の歩道はかなり狭い歩道が多くて、例えば人見線であればケヤキ並木が一部ある。そこのケヤキが相当成長していて、根がかなり深く張っていて、歩道にどんどんめり上げてくるような状況になっている。今回の整備では恐らく小さい、イタリアポプラになるかどうかわからないが、イタリアポプラとして考えていくと、恐らくまだ小さい、苗木から少し成長したぐらいのものをまず植えるのかなと思う。もし植えたとして今後20年くらい経過すると、恐らく根の状態がもしかしたらそういう状態になるかもしれない。ということで、いろいろ考えられると思うが、街路樹の選考に当たって、今のところイタリアポプラになっているが、選考過程で最終的にこの一つだけではなかった思う。いくつかのパターンが検討されていると思うが、最終的にどういう種類が検討されたのか、お聞きしたい。

**○経済部参事３級（阿部　貴樹）**

・　トータルデザイン作成業務に当たり、３回ほど検討委員会を開催している。その中で候補の樹木としては、イタリアポプラのほか、イチョウや白樺、ナナカマド、イチイなどを候補としていた。その中でも、駅前通は砂地であって水のところが高いとか、あとは塩害にも強いということをトータル的に検討して、一つの候補としてイタリアポプラという形になっている。ただ、これが特定ではなくて、今後、このイタリアポプラがいいのか、それとももうちょっと違うものがいいのか、開建とも協議していきたい。

**○本間　勝美委員**

・　歩道のレンガ舗装の部分だが、函館は雪が降る町で、特に最近は夜間凍結したものが日中溶けてしまうと、その繰り返しである。札幌、旭川であれば積雪期間は大体ずっと雪が積もった、固まった状態のところが多いと思うが、函館の特徴としては降った雪が日中溶けてしまって、それが夜間に凍結するという繰り返しで歩くにも大変な状況になるのではないかと思うが、このレンガの舗装の部分で、タイルにはいろんな種類があると思うので、特にそういった函館の地域特性に応じた、レンガ以外でも地域特性に応じた歩きやすいというか、滑りにくい材質のものを考慮しながら採用しなければならないと思う。現在、そういうことも検討しながら、レンガでも函館の特性に応じたものをということで検討されているのかどうか、お聞きしたい。

**○経済部参事１級（上戸　泰雄）**

・　オールドニューということで、このレンガを採用したということがある。レンガも昔の素焼きのレンガと違って、滑らないものだとか製品的にはいろんなものができていると聞いているので、その辺で検討していきたいと思っている。

**○本間　勝美委員**

・　トータルデザインについてだが、やはり道路だけよくなっても街並みの統一感が最終的には達成されなければならないと思う。函館市内で過去に商店街の整備と言えば、二十数年前、行啓通、道道が拡幅された時に電線の地中化と街並みの統一ということでやられたと思うが、あそこの街路樹はベニバナマロニエを植えている。残念ながら今、見てみると剪定されてしまっている。せっかく電線が地中化されたのに剪定されてなかなか大きくならないような状況になっている。それで行啓通に関しては確か白で街並み、外観を統一しようということだったと思うが、かけ声だけで終わってしまって、現状を見ると行啓通は白で全く統一されていない状況になっている。もしかすると商店街組織が複数存在して、意志統一が図られなかった結果があいう状態になってしまっているのかなと思う。トータルデザインのところでは、現在、都心商店街に一本化されているということなので、地元の商店街から、こんな街にしたいというようなものが実際声としてあがっているのかどうかお聞きしたい。

**○経済部参事３級（阿部　貴樹）**

・　トータルデザインの駅前通の整備に当たってのイメージパースを都心商店街とも数回、理事の方を初め協議をさせていただいた。都心商店街としては現在、国の補助制度を活用しながら駅前通の今後ということで、今後どのような形で進めていくべきかという部分で市民アンケートを取り、街並みを含めてどのようにしたらよいかという部分を検討しているところである。そうした中で恐らく今後、

我々との協議の中で都心商店街としての考え方、要望等々が出てくると思うので、そこで協議をさせていただきたいと思っている。

**○委員長（工藤　篤）**

・　他に発言あるか。（発言なし）

・　私のほうから少し確認したいのだが、先ほど、樹木の選定で３回ほど検討委員会を開いたとあるが、メンバーはどのようになっているのか。専門家は入っているのか。

**○経済部参事３級（阿部　貴樹）**

・　委員は全部で６名である。学識経験を有する者として、今回の検討委員会の委員長であるが工学院大学准教授の遠藤　新様、市内で１級建築士をなさっている原さんという女性の方、美しいまちづくり検討会から座長である未来大学の木村教授、あと経済界ということで地元の都心商店街から渡辺理事長のほか、商工会議所副会頭の永井様、市からは片岡副市長ということで、この６名で検討委員会を構成している。その中で計３回、委員会を開催して検討してきている。

**○委員長（工藤　篤）**

・　樹木の関係で専門家というか、例えば林業試験場みたいなところの意見をきちんと聞いて対応していかなければ、生物だから思いと実態と変わってくると思うので、是非その辺をお含み置きいただきたいと思う。

・　他に発言がないようなので、発言を終結する。

・　ここで理事者は御退席願う。

（経済部　退室）

**○委員長（工藤　篤）**

・　ただ今、当市の現状について調査を進めてきたが、前回の委員会において、他都市の取り組み内容等についての調査研究を行うことが確認されていた。そこで、正副委員長としては、先進的、特徴的な取り組みを行っている都市への行政調査を行ってはどうかと考えている。具体的には、まず、道路空間を活用した社会実験の実施や、アーケード撤去、オーニングテント設置、個性的空間演出のための街路灯整備、電線地中化、カラー舗装など、総合的なコミュニティ道路の整備を行い、地域内の回遊性を高める取り組みを進めている宮崎市、また、地域のにぎわいづくりのためには、地元商店街の意欲が不可欠であるとして、商店街の意欲を活かす振興策を進め、その特色や魅力を高めることにより、地域の活性化に取り組んでいる東京都台東区を対象とし、調査を実施し、当市における課題等の分析の一助としてはどうかと考えているがいかが。（異議なし）

・　調査日程についてだが、10月23日（水）から25日（金）の日程で行いたいと考えているがいかが。（異議なし）

・　ただ今、行政調査を行うことを確認した宮崎市と台東区について、正副で資料を調整しているので、事務局に配付させる。

（事務局　資料配付）

**○委員長（工藤　篤）**

・　資料の１ページをご覧いただきたい。こちらは宮崎市の中心市街地の区域図である。宮崎市の中心市街地のシンボルロードは、ＪＲ宮崎駅西口から西に伸びる、県道宮崎停車場線、通称、高千穂線と、市役所前交差点から北に伸びる、国道220号、通称、橘通りとなっている。次に、２ページから10ページにかけて、宮崎市の中心市街地活性化基本計画における平成23年度のフォロー・アップに関する報告書を掲載している。５ページの一番下をご覧いただきたい。基本計画の主要事業のうち、⑥として「宮崎駅前商店街整備事業」について記載している。この事業は、商店街が事業主体となって平成20年度から電線地中化、カラー舗装、街路灯整備などを行っており、また、平成18年度には、商店街のアーケードを撤去するなど、当市がこれから進める予定の事業の先例として、非常に参考になる事業であると考えている。次に、11ページをご覧いただきたい。11ページから14ページにかけて、宮崎市中心市街地まちづくり推進プランの抜粋を掲載している。宮崎市では、平成19年に国の認定を受けた「中心市街地活性化基本計画」の期間満了に伴い、平成25年度以降の中心市街地活性化に向けた取組みを定め、更なる活性化を図るために「宮崎市中心市街地活性化推進プラン」を平成25年３月に策定している。このプランのうち、資料ではプランの基本的考え方の部分を抜粋して掲載している。資料の14ページをご覧いただきたい。宮崎県では、宮崎の特徴である豊かな自然を活かした先進的なまちづくりとして、全県公園化に向けた取り組みが推進されてきた。そこで宮崎市では、この流れを中心市街地で展開しようと、市のメインストリートである「橘通り」を中心した公園化を基本計画の基本理念に掲げ、公園化の一つの検討案として、平成20年度に車線減少、４車線化の社会実験を行っている。これには様々な問題があり、一時撤回しているようだが、この「橘通りを中心とした公園化」は、街の回遊性を高めるための重要な考え方であるとして、現在も継続して取り組まれている。社会実験については、15ページと16ページに詳しく記載しているので、後ほど、ご覧いただきたい。メインストリートに対し、一つのコンセプトを持って取り組む際の課題、問題点、効果を調査することは、今後、当委員会で調査を進めていく上でも参考になるものと考えている。次に、17ページをご覧いただきたい。こちらは、資料としては若干古いのだが、宮崎市の担当者が執筆した記事を掲載している。こちらは、宮崎市の中心市街地活性化についてコンパクトにまとめられているので、後ほど、ご覧いただきたい。続いて台東区に関してである。資料の23ページをご覧いただきい。台東区は、商店街活性化のための支援策が充実しており、その中でも、正副は浅草の伝法院通り商店街の整備について着目した。この商店街は、通りに江戸情緒あふれる街並みを再現することにより、地域の回遊性を高め、観光振興及び地域全体の活性化に寄与している。函館駅前通りは今後、アーケードの撤去が予定されているが、撤去後の景観の問題は課題の一つとして挙げられることから、この商店街の景観に対する取り組みや考え方は非常に参考になるものと考えている。次に、24ページをご覧いただきたい。こちらには、ＮＰＯ法人まちづくり推進機構がまとめた浅草の商店街の街並みモール化整備事業の一覧を掲載した。このように浅草の商店街では様々な整備事業が行われていることから、このたびの行政調査により、道路空間を活用したにぎわいづくりについて、参考となる事例など御紹介いただけるものと考えている。次に、26ページをご覧いただきたい。こちらには、台東区の長期総合計画から「商店街の意欲を活かした振興」にかかる部分を抜粋し、掲載している。台東区は、地域経済の活性化には、商店街の意欲が不可欠であるとして、商店街の意欲を活かすための振興策、支援策が充実している。

函館駅通の整備は、商店街、国、北電といった民間が事業主体となるが、市として、どのような施策を展開すべきか調査する上で、台東区の取り組み、考え方は非常に参考になるものと考えている。最後に、資料の１枚目をご覧いただきたい。今回、２箇所の行政調査を行うに当たり、今後、当委員会の調査を進めていく上で、参考となる事業を調査内容としてまとめている。以上、資料の概要を説明させていただいたが、説明した以外の部分についても、行政調査までに各委員において、ご覧いただければと思う。

・　その他、各委員から何か発言あるか。（なし）

・　議題終結宣告

---

３　その他

**○委員長（工藤　篤）**

・　議題宣告

・　その他、各委員から何か発言あるか。（なし）

・　散会宣告

午前11時25分散会